

## 戸倉ダム建設に関する要望書

近年の気候変動により、台風の大型化や線状降水帯などによる集中豪雨で、全国各地で激甚な水害が頻発しております。群馬県でも令和元年東日本台風の時には、多くの被害が発生しました。幸いにも試験湛水中の八ッ場ダム含め、利根川上流ダム群により、ダム下流の吾妻川、利根川の破堤、氾濫を回避することができました。

こうした中、国土交通省関東地方整備局におかれましては、気候変動の影響を考慮し、当面の河川整備の内容を定めた利根川水系利根川・江戸川河川整備計画を令和7年3月に変更し、この中で利根川上流部における洪水調節機能のさらなる強化のため、「治水機能増強検討調査」の実施が盛り込まれました。

今年度から開始された調査では、事前放流のさらなる活用や放流操作の最適化、治水・利水の要領の見直しなど、既存ストックを最大限に活用した洪水調節の検討を実施するとともに、検討の結果、ダムの改造・新設による洪水調整が必要となる場合には、過去に中止になったダム等についても選択肢から排除せず検討を進めることとされています。

片品村には、平成15年12月に中止となった戸倉ダムがあり中止に至るまで、環境影響評価、用地取得、工事中道路等の事業が実施されました。このように一定程度進捗している戸倉ダムを活用し利根川上流域の治水機能増強することは、時間的、経済的な観点、また治水対策においても大変効果的かつ重要であると共に、流域の治水安全度向上が期待されます。さらに、ダム建設により地域の活性化にも資することが可能であると考えます。こうしたことから、戸倉ダムの事業再開を治水機能増強検討調査に盛り込んでいただき、建設を強く要望するものです。

令和8年1月13日

戸倉ダム建設促進期成同盟会長

梅澤 志洋

